

佐藤源貞創立者名誉会長、武田社長、来賓の皆様

アンテナ技研—皆様の方がより詳しくご存じの日本企業—の 50 周年記念式典においてご挨拶の機会を頂き大変嬉しく思っています。今から 127 年前の 1888 年 12 月 13 日、ドイツの科学者 Heinrich Rudolf Hertz は電磁波の存在を決定づけた実験について論文を発表しました。

Hertz は、スコットランドの科学者 James Clerk Maxwell が予見した、当時知られていた電磁気学的見解を一新する、光の電磁波としての性質を高周波のパルスの送受信による実験によって証明しました。

この Hamburg 出身のドイツの科学者は僅か 36 歳で他界しましたが、彼の功績を讃えて周波数の単位を Hertz と呼ぶことにより、その名は不滅のものになりました。

Hertz が電磁波技術という応用物理の分野で先駆者であったことは万人が認めるところです。しかし、彼は孤軍奮闘していたわけではありません。さらなる発展に寄与する他者による、進展、進歩、学問へという歴史の流れには美しさがあります。

今日、世界が、より頻繁に揺れ動き、心の狭い狂信的な主義により益々困難な状況になろうとしているとき、また世界中で他の思想や他の生活様式を歓迎して寛大に受け入れるのではなく排除しようとする試みがされようとするとき、我々は James Maxwell, Henrich Hertz, Guglielmo Marconi, Alexander Graham Bell やその他大勢の科学者の偉業を振り返らなければなりません。彼らの業績は人類発展に貢献してきました。ここにいらっしゃる皆様は専門家で私よりも詳しいと存じますが、電波技術は、放送による娯楽、電子レンジによる調理、衛星を用いた通信システムなどを提供するために有効活用されています。

前述した先駆者の革新的な技術のおかげで、広く散らばっていた世界は、いわゆる地球村にまで身近になりました。今日では、いつでもどこでも誰とでも連絡を取ることができます。

時間と国境とを越えた開放的な協力により我々が何をできるのか、先駆者達の知恵から学ぶべきではないでしょうか。

アンテナ技研株式会社は、ドイツ、イタリア、米国や他の国々からの技術を基礎に成功した日本の中規模企業の好例です。私は、アンテナ技研が更に発展し続け、来る 2065 年には次の 50 周年記念をお祝いできると確信しています。残念ながら、私の日本赴任の任期はそのずっと前に終わりますが、国際的協業の精神は確実に成功裏に生き続けることでしょう。

佐藤源貞創立者名誉会長とアンテナ技研に対し成功を願っております。また私のお話をお聞きいただいた皆さんに感謝し、皆さんにとって素晴らしい記念式典となることを願っております。

本日は、おめでとうございます。

